

プロジェクト研究Ⅱ 言語活動の充実

深い学びを実現する評価の工夫 —小学校外国語活動における学習シートの活用—

大和郡山市立矢田南小学校 教諭 大塚 まなみ

指導主事 杉浦 朝香

深い学びを実現する評価の工夫

—小学校外国語活動における学習シートの活用—

大和郡山市立矢田南小学校 教諭 大塚 まなみ

Otsuka Manami

指導主事 杉浦 朝香

Sugiura Tomoka

要 旨

小学校外国語活動における児童の言語活動への積極性を高めるため、学習シートを活用し児童の取組の変容について検証した。学習シートの活用を通して、児童が各自の目標と授業の流れを意識し、振り返りの自己評価から成長を実感できたことにより、進んで活動に参加できるようになった。

キーワード： 学習シート、各自の目標、振り返り、自己評価、活動への積極性

1 はじめに

『小学校学習指導要領解説 外国語活動編（平成29年7月）』（文部科学省）では、外国語活動の目標は、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成することを目指す」と記されている。「第2章 第2節 第1 目標」では、外国語活動の三つの領域「聞くこと」、「話すこと〔やり取り〕」、「話すこと〔発表〕」の目標が設定された。外国語によるコミュニケーションを通して体験的に外国語や文化、また、日本語と外国語の音声の違いなどに気付き、外国語の基本的な表現に慣れ親しむことがねらいとされている。コミュニケーション能力の素地の育成が最も重要な目標とされており、そのために、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養わなければならない。その学びを実現するためには効果的な言語活動を設定し、活動への児童の参加の場面を設定することが不可欠である。しかし、慣れ親しむことをねらいとした楽しい要素を取り入れた活動では、ゲームが楽しかったことだけに終わってしまったり、楽しみに熱中するあまり、英語でやりとりをするという本質が欠けてしまったりすることもある。英語で発話することへの不安もあり、英語を使うことが中心となる活動になると、参加しにくい児童が出る状況もある。『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック（平成29年7月）』（文部科学省）では、「主体的・対話的で深い学び」を推進できるよう次のような学習過程を単元や授業の中の流れとして位置付けることを示している。「外国語教育において、①設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況を理解し設定

する②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる③対話的な学びとなる目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行うという学習過程が示されている。この学習過程を単元や授業の中の流れとして位置付けることで、「主体的・対話的で深い学び」を推進することができる」と記されている。単元の見通しをもって計画した学習内容と授業の流れを児童と共有することは、児童も見通しを立て、安心して学習に参加できることにつながる。④で示されている振り返りを通して行う自己評価については、下浦・陀安・小川・堀家（2015）において、主体的な学びを高める外国語活動の授業づくり—自己評価の工夫—の中で、「個々の児童に毎時の活動目標を具体的にもたせることが、児童に自信を付けさせることや活動への意欲を喚起させることにつながった」と述べており、加藤（2006）は自己評価カードを使った取組において、「継続した自己評価の取り組みが児童の活動意欲を高めることができた」と述べている。振り返り活動を通して自己評価の取組は意欲が高まることが明らかになっている。

以上のことから、言語活動への児童の積極的な参加を促すため、児童一人一人が自分の立てた目標を振り返り自己評価をすることと、活動への不安を解消するため学習内容を分かりやすく示し学習の流れを定着させることに着目した。「めあてを確認する」→「各自の目標を立てる」→「目標を意識して活動する」→「振り返りをする」→「自己の成長を実感する」という学習活動の流れを学習シートの活用を通して実現し、活動への積極性を高めることができるのではないかと考えた。そこで、本研究の研究仮説を次のように設定した。

学習の内容、めあて、自分の目標を明確にし、振り返りを通して自己の成長を実感できる学習シートの活用が、児童の言語活動への積極性を高める。

2 研究目的

研究対象校の外国語活動の授業において、本時のめあてを板書して全員で声に出して読むが、自分の事になっておらず、言語活動への意欲をもてない児童がいるという実態があった。そこで、本時の学習内容を分かりやすく示し、授業の始めに児童が自分自身の目標を立てる、そして授業の終わりに目標の達成と学習内容を振り返ることで自分の学びを実感し、活動への積極性が高まるのではないかと考えた。目標の設定、ワークシート、相互評価表、学びの振り返りを一枚にまとめ、ファイリングすることで児童が自身の成長を実感できるような学習シートを作成し、活用することとした。外国語活動における児童の言語活動への積極性を高めるため、学習シートを活用し、児童の取組の変容について検証する。

3 研究方法

(1) 研究期間

平成30年5月～12月

(2) 実施校及び対象児童

大和郡山市立矢田南小学校 4年1組 児童22名

(3) 検証方法

外国語活動の授業において学習シートを活用した取組を行い、言語活動への積極性の変容について、児童観察、学習シートへの記入内容及び児童対象の質問紙調査から分析する。

4 研究内容

(1) 取組前の研究対象校の実態

研究対象校では、本年度新学習指導要領への移行措置をとっており、4年生の外国語活動の授業時間は年間15時間である。1～4年生は学期に一度ALTが外国語活動の授業に入っている。昨年度3年生では、ALT主導の外国語活動の授業を学期に一回ずつ行った。

年度当初、Warm upの活動などは全員楽しく参加できていたが、本時の主となる言語活動になると、積極的になれない児童が半数いた。5月の質問紙調査（資料1参照）「外国語の授業のめあてを理解している」の項目では、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と答えた児童は22名中7名であり、めあてが自分の事となっていないため、学習内容や活動の目的が理解できていない様子であった。外国語活動の「話す」活動に対して自信のなさもある。5月の質問紙調査「先生や友達と英語を使って話すことができる」の項目では、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と答えた児童は22名中8名であり、「クラスは発言しやすい雰囲気である」の項目に8名の児童が「そう思わない・あまりそう思わない」と答えていることから、発表時に緊張感をもっていることも分かった。子どもたちが活動に参加したいと思うためには、安心できることが大切である。「先生や友達の話最後まで目を見て聞くことができる」「先生や友達の話最後まで静かに聞くことができる」の項目は両方とも18名の児童が「そう思う・どちらかといえばそう思う」と答えていることから、指導者や友達の話すことをしっかり聞こうという気持ちはあるが、指導者の観察では指示や説明が聞けていないのが実態であった。効果的な言語活動を行うためには、落ち着きある学級づくりも大切である。また、指導者や友達の話聞く姿勢をもたせることも必要である。5月の質問紙調査「外国語の授業は好きだ」の項目では、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と答えた児童は19名、「英語を使えるようになりたいと思う」の項目では22名中20名の児童が「そう思う・どちらかといえばそう思う」と答えていることから、外国語に好意性を持ち英語を使って話したいという気持ちをもっているが、授業の活動に参加しにくい状況だということが分かった。子どもたちがめあてを聞いて自分の学習する姿を想像し、めあてを自分の事として捉えるためにはどうすればよいか、学習内容について興味・関心を持ち、習った英語を使ってコミュニケーションを図る楽しさを感じてほしいという課題があった。

(2) 取組の経過

学習シートは児童の現状に合わせて、学習シートに慣れる段階（Ⅰ）、目標を意識する段階（Ⅱ）、目標を振り返り、フィードバックする段階（Ⅲ）の3段階に変化させた。工夫の形は最初から決まっていたのではなく、実態や反応に応じて、児童が対応できるよう改良を加えていった。積極性の基盤をつくるために、そしてしっかり定着させるために時間をかけることが必要であった。学習シートを徐々に変化させることで、「めあてを確認する→各自の目標を立てる→目標を意識して活動する→振り返りをする→自己評価や指導者のコメントを通して自分の成長を実感する→次回の授業への意欲をもつ」というスタイルを定着させた。授業時間だけでなく、時間が経ってからも自分の学びを振り返ったり、学びの足跡として残したり、自分自身の変容を見取れるようにファイリングした。児童が積極的に活動に参加しているイメージをもちながら、「どんな言葉なら子どもたちに分かりやすく、興味をもたせることができるだろう」「どんなレイアウトなら、子どもたちがわくわくするだろう」と子どもたちの気持ちに寄り添い工夫をした。

ア 学習シートに慣れる段階（Ⅰ）＜学習シート①、②＞

表1 活動計画 (Let's Try1 Unit 1～3 2018年4～6月)

	活動内容	学習シート
第1時	<ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Watch and Think(P.2) ・ Let's Watch and Think(P.6) ♪ Hello song ・ How are you? I'm ○○. 	
第2時	<ul style="list-style-type: none"> ・ How are you ? I'm ○○. ♪ Ten Steps(1～10) ・ Let's Play(P.12) 	
第3時	<ul style="list-style-type: none"> ・ Flash card(11～20) ♪ Ten Steps(1～10、11～20) ・ ミッシングゲーム ・ 陣取りゲーム <p>(1～20までの数字のカードをランダムに並べ、2チームが両サイドからスタートし、並んでいる数字にタッチしながら順に英語で言いながら進んでいく。出会ったところでジャンケンをする。勝ったチームは相手陣地に進んでいき、負けたチームは次の人がスタートして進んでいく。相手チームの端まで進んだチームの勝ち。)</p>	<p>学習シート</p> <p>①</p>

(7) 学習シート①の活用

学習シート①は自己評価を意識し、振り返りに集中できるよう振り返りシートのみにした(図1)。初めての学習シートに愛着をもち、記入することが楽しいと感じてくれるようにというねらいをもってデザインを考えた。記入することが負担にならないように、絵も大きく、分かりやすく、書きやすく、答えやすいものにした。ただ選ぶだけでなく児童の実態に合わせ色を塗るという楽しめる要素も取り入れた。「よくできた、よく分かった」のマークは特に大きくし、色を塗る際に達成感を味わえるものにした。気付いたことや感じたことを自由に書けるように、記述部分を設けた。「最初はよく分からなかったけど、どんどんやって分かるようになってきた」「じゃんけんは日本の方が分かりやすい」「あまり分からなかった」という記述があり、半数の児童が感想を書いていた。「今日の活動は進んで参加できましたか」の項目には、16名の児童が「よくできた・できた」と振り返った。参加しにくい子どもたちもいたが、活動計画(表1)にある陣取りゲームはチームで行ったため、参加を促すことができた。全てのマークに色を塗ったり、いろいろな所に印を付けたりとどこに当てはまったのか分からないものが3名、「できなかった」と答えた児童は2名であった。児童一人一人の自己評価や記述内容に対し、指導者は褒め言葉や励ましの言葉を丁寧に記入した。

Reflection Sheet
How many②

年 組 番 Name ()

今日の授業で、英語でできることはふえましたか?あてはまるマークに色をぬろう。

	よくできた よく分かった	できた 分かった	できなかった 分からなかった
1～20までの数字を言うことができましたか?			
友だちに数を聞くことができましたか?			
今日の活動は進んで参加できましたか?			

◆ふりかえりを書きましょう。

図1 学習シート①

(4) 学習シート②の活用

前時に、振り返りをするためには、めあてをしっかりと意識させ、活動することが大切だと感じ

Lesson 3 I like blue.③ Name ()

《めあて》
 ・みんなに依わるように工夫して自己紹介をしよう。
 ・「うめrais」で、友だちの自己紹介を聞こう。

A 習った英語を使って ・あいさつ ・名前 ・好きなものをみんなに依わるように工夫して言うことができる。	B 習った英語を使って ・あいさつ ・名前 ・好きなものを言うことができる。	C 習った英語を使って ・あいさつ ・名前 ・好きなものを先生と「いっしょに」言うことができる。
---	---	---

《Reflection》 今日の授業について、あてはまるマークに色をぬろう。

自己紹介であいさつが言えた	😊	😐	😞
自己紹介で名前が言えた	😊	😐	😞
自己紹介で好きなものが言えた	😊	😐	😞
依えるために工夫した	😊	😐	😞
うめraisで聞けた	😊	😐	😞

◆自己紹介の中で、どんな工夫をしましたか。

◆友だちのスピーチを聞いて感じたことを書きましょう。

P-Time (Pタイム) カード

P-Time word
 Hello.
 I'm 『名前』.
 I like ○○ (and △△).

大塚先生なら...
 Hello.
 I'm 『Monomia』.
 I like blue (and swimming).

同じ班の人のスピーチはどうだったかな？
 ◎工夫して言えてた ○言えてた △もう少し でチェックしてね。

友だちの名前	あいさつ	名前	好きなもの	声の大きさ

図4 学習シート④

について丁寧な説明とデモンストレーションを行った。指導者の発表を見せ、「今の発表だったら、声の大きさはどうかな」と問うと、児童が「あまり聞こえなかった。小さい声だから△」というように評価の試行を行った。発表を行うときは、特に聞く姿勢について注意を促した。自分が前に出て発表しようとしたときどのように聞いてくれると嬉しいか児童に考えさせた。本学級には「うめraisで聞こう」という標語がある。「うめrais」とは「うなずきながら」「め(目)を見て」「ラストまで」「いっしょうけんめい」「スマイルで」とそれぞれの頭文字をとったものであり、聞くときの態度を表している。この標語を意識させることを徹底した。評価をする際は、友達の良い所、頑張ったところを見つけようという気持ちをもつことやふざけないことを事前に指導した。自分で立てた目標を意識して発表することと、友達の自分への評価から、意識していなかった自分の良さに気付き、自信をもつことにつながってほしいというねらいがあった。事前に聞く時の注意を意識させたことでなかなか集中できない児童が、発表時一生懸命聞き入っていた。自分のことだとややよい加減になってしまう児童も友達のこととなると真剣に取り組むことができた。発表をしっかりと聞くことができたので、評価も丁寧にできていた。グループ内で相互評価を共有することは、慎重さが必要であった。学習シートを回収し、内容を確認し、全員が誠意をもって評価できていたため、意図した通り相互評価が児童を自己肯定感を高める取組となった。振り返りの記述部分では、「友達のスピーチを聞いて感じたことを書きましょう」の項目に全員が記入できていた。「みんないろんなことを言って上手だった」「私もみんなみたいに上手に言いたいです」「もっと声を大きくすればいい」「前を向いた方がいい」「ほとんどみんな大きい声で言えた」という記述があり、発表の活動を通して児童自身にいろいろな気づきがあったことが表現できていた。自分自身の工夫については、「大きい声ではっきり言う」「聞きやすいように言った」という記述があった。このような発表をしたいというイメージをもって発表し、発表後、自分の姿の良いところも改善すべきところも振り返ることができていた。

ウ 目標を振り返り、フィードバックする段階(Ⅲ) <学習シート⑤~⑨>

(7) 学習シート⑤の活用

前時の振り返り時に「目標Bにしていたけど、工夫できたからAにしたらよかった」など目標を意識して自己評価している児童の言葉を聞くことができた。また、振り返りにおける自己評価

表3 活動計画 (Let's Try! Unit 6 2018年9～10月)

	活動内容	学習シート
第1時	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにあるアルファベットを見つけよう。 ・Flash card (アルファベット) ♪ ABC Song ・アルファベット集めゲーム (一人に1枚ずつアルファベットカードを配り、いろんな場所で見かけるアルファベットを探す。例：NHK、YMCA、PUMA) 	学習シート⑤
第2時	<ul style="list-style-type: none"> ♪ ABC Song ・ポインティングゲーム (一人で、ペアで) ・かるた 	学習シート⑥
第3時	<ul style="list-style-type: none"> ♪ ABC Song ・T-Time (全員分の名前に使われているアルファベットをカードにし、ランダムに配布する。自分の名前に使われているアルファベットを集める。) ・P-Time (自分の名前をアルファベットで伝える。) 	学習シート⑦

や児童観察から、自分で立てた目標を意識し、活動できるようになったと判断し、学習シートを次の段階へと進めた。学習シート⑤には、自分の立てた目標を振り返る項目を設けた(図5)。目標の振り返りをすると、目標を立てるとき「自分の立てた目標が達成できなかったら、いやだから」と慎重になる声も聞かれた。児童が立てた目標はA 6名、B 15名、C 1名であった。自己評価後、自分と同じBの目標を立てた児童がAの内容を達成できたことを見て悔しがったり、見つけたアルファベットで言えなかったものを指導者に質問したりする児童もいた。立てた目標を振り返ることで、達成できたことと、達成できなかったことに対する意識が高まった様子が見られた。Bの目標を立てた15名の内、4名の児童がAを達成できたと自己評価した。Cの目標を立てた1名の児童はアルファベット集めゲーム(表3 第1時)に参加し、自己評価も「できた」としていた。

Lesson 4 ALPHABET ① Name ()

《めあて》
 ・アルファベットを見つけよう。
 ・アルファベットの読み方を知ろう。

◆自分のめあてを決めよう！

A	B	C
見つけたアルファベットを、全て大きな声で言うことができる。	見つけたアルファベットをいくつか言うことができる。	アルファベットを見つけたら、大きな声で言うことができる。

《Reflection》 今日の授業について、あてはまるマークに色をぬろう。

	😊	😐	😞
アルファベットを見つけることができた。			
ABCソングを歌うことができた。			
アルファベットの読み方がわかった。			
進んで活動に取り組むことができた。			

◆自分のめあてが達成できたか振り返ろう。

A	B	C

◆気づいたこと、わかったことなどを書きましょう。

図5 学習シート⑤

Lesson 4 ALPHABET ② Name ()

《めあて》
 ・音を聞いてどのアルファベットかを見つけられるようになる。

◆自分のめあてを決めよう！

A	B	C
聞いた音がどのアルファベットかわかる。	聞いた音を同じように、言うことができる。	友だちと協力して、聞いた音がどのアルファベットかわかる。

《Reflection》 今日の授業について、あてはまるマークに色をぬろう。

	😊	😐	😞
ABCソングを歌うことができた。			
聞いた音をくり返し言うことができた。			
聞いた音がどの文字が見つかることができた。			
進んで活動に取り組むことができた。			

◆自分のめあてが達成できたか振り返ろう。

A	B	C

◆気づいたこと、わかったことなどを書きましょう。

図6 学習シート⑥

(イ) 学習シート⑥の活用

アルファベットを使った本時の活動内容を理解し、自分で立てた目標を意識しながら活動に参加している様子が、アルファベットの音を一生懸命聞きとろうとする児童の姿勢から見取ること

ができた。活動の指示をしたとき、何をしてよいか分からず、参加できない児童はいなくなった。ポインティングゲームやアルファベットかるた時の聞きとりに集中する姿勢や聞き取れなかったら友達に尋ねるといった前向きな姿が見られた。学習後に、立てた目標の達成を振り返ることに対しては慎重であった。Bの目標を立て、振り返りもBだと自己評価した児童7名のうち5名は指導者の観察ではAの内容ができていた。もっと自信をもってほしいという意図から、「Aの内容を達成できていたね」など自信をもたせるコメントを書いて振り返りシートを返却した。目標の振り返りにCと答えた児童が0名であった。

Lesson 4 ALPHABET ③ Name ()

《めあて》
 ・自分の名前アルファベットカードを集めよう。
 ・Here you are./Thank you.のやりとりができるようになろう。

◆自分のめあてを決めよう！

A	B	C
ほしいカードのアルファベットを言ったり、友だちのほしいカードを見つけておたずねしたりができる	ほしいカードのアルファベットを言ったり、友だちのほしいカードを見つけておたずねすることができる	先生や友だちに助けてもらいながらカードを集めることができる

《Reflection》 今日の授業について、あはまるマークに色をぬろう。

Here you are.とカードをわたすことができた。	😊	😐	😞
Thank you.とお礼を言うことができた。	😊	😐	😞
自分のほしいカードを言うことができた。	😊	😐	😞
進んで活動に取り組むことができた	😊	😐	😞

◆自分のめあてが達成できたか振り返ろう。

A	B	C

◆気づいたこと、わかったことなどを書きましょう。

T-Time

A : Hi! The 『ほしい文字』 card, please. B : Here you are.
 A : Thank you. B : You're welcome.

★自分の集めたカードをはろう★

P-Time

Hi! I'm 『自分の名前』 『アルファベット』 Thank you !
 大塚 : Hi! I'm 『Manami』 『MANAMI』 Thank you !

★同じ班の人のスピーチはどうだったかな？★

◎工夫して言えた ○言えてた △もう少し でチェックしてね。

友だちの名前	名前	アルファベット	声の大きさ

図7 学習シート⑦

(ウ) 学習シート⑦の活用

Aの目標を立てる児童が増え、14名になった。前時までBの目標を立てていた児童が学習シート⑥の指導者のコメントを読んで自信をもつことができたと思われる。コメントを通して励ましの声かけをする重要性を改めて認識した。学期に1回指導に訪れるALTに英語を使って伝えられたという自信をもってほしいというねらいをもって、自分の名前と名前のアルファベットを発表するP-Timeを設定した(表3 第3時)。前回のP-Timeよりさらに声を大きくするなどの工夫ができていた。「進んで活動に取り組むことができた」の振り返りでは、「できなかった」と答えた児童が0名になった。発表を終え、ALTは「話したいという意欲が1学期よりずいぶん増している。話す技術も向上し、声の大きさや表情も大変よくなった」と評価した。全員発表の声がしっかり聞こえ、発表でつまっている友達を助ける様子が見られた。

(I) 学習シート⑧の活用

学習シートを活用する授業形態が定着してきた。以前のフラッシュカードを使った発音練習では、よそ見をし、あまり声を出さなかった児童が、自分の立てた目標を意識してしっかり練習できていた。「言えたから、Aだ」という声も聞かれた。しかし、本時に設定したペアで行うキャッチングゲーム(表4 第1時)では、キーワードを聞き取ったときに机の真ん中に置いた消しゴムを素早く掴むことが楽しく、ふざける児童の様子が見られた。その4人の振り返りでは「進んで活動に取り組むことができた」の項目は4人とも「できなかった」と自己評価し、記述部分にも「ゲームのときふざけてしまった」と書いている児童がいた。自分の学びの姿の振り返りができていることと、どうするべきかを考えるよう促すコメントして返却し、声かけもした。学習

内容の自己評価について、「～ができたから」と理由を書く児童が出てきた。また「次の時間もAにしたい」や「次もAでがんばりたい」と次の授業への意気込みを書くようになった。

表4 活動計画

(Let's Try1 Unit 6 2018年9～10月)

	活動内容	学習シート
第1時	<ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Watch and Think ① (P.18) ♪ Do you have a pen? ・ Flash card (文房具) ・ キャッチングゲーム (2人の間に一つ消しゴムを置き、キーワードを一つ選ぶ。キーワードが言われたら消しゴムを取る。) ・ Let's Watch and Think ② (P.20) 	学習シート⑧
第2時	<ul style="list-style-type: none"> ・ Flash card (文房具) ・ Do you have a ~? Yes, I do. No, I don't. ・ T-Time (BINGO) 	学習シート⑨

Lesson 5 Do you have a pen?①

Name ()

《めあて》
・ 文房具など学校で使う物の英語での言い方を聞いたり言ったりしよう。...

◆自分のめあてを決めよう!

A	B	C
習った文房具の名前を自分で言うことができる。	習った文房具の名前を先生や友だちのあとにくり返して言うことができる。	習った文房具の名前を先生や友だちと一緒に言うことができる。

《Reflection》 今日の授業について、あてはまるマークに色をぬろう。

文房具がいくつあるか英語で数えることができた。	😊	😐	😞
文房具などの英語での言い方がわかった。	😊	😐	😞
世界の子どもたちの持ち物について興味をもって見る事ができた。	😊	😐	😞
進んで活動に取り組むことができた。	😊	😐	😞

◆自分のめあてが達成できたかふり返ろう。

A	B	C
◆気づいたこと、わかったことなどを書きましょう。		

図8 学習シート⑧

(オ) 学習シート⑧の活用

本時のT-Timeはビンゴゲームの形(表4)であった。学習シートを配ると「ビンゴゲームしたい」と児童から歓声が上がった。前時の発音練習はしっかりできていたと思われるが、言語材料が増えたためか児童は慎重に目標を立てた。Aの目標を立てた児童は10名、Bの目標9名、Cの目標は2名であった。児童の目標の立て方から言語材料が多いことへの不安が感じとれたので、指導者が丁寧にデモンストレーションをし、T-Timeで発話する表現を練習して活動に入った。Cの目標を立てた児童は、最初指導者と一緒に友達とやりとりをしたが、自然と一人で友達に話しかけに行くようになった。振り返りでは、Aとした児童が16名であった。立てた目標がBで振り返りをAにした児童数が最も多く7名になった。また、「進んで活動に取り組むことができた」の項目の振り返りは「よくできた」18名「できた」4名であり、「できなかった」と答えた児童が0名であった。児童が全員「進んで活動に取り組んだ」と自己評価できた。指導者の観察からも全員が活動に参加できたと見取ることができた。

立てた目標がBで振り返りをAにした児童は、「やってみたらできた」「ちゃんと言えた」「がんばって言えたのがうれしかった」「一番最初全然言えなかったけどだいたい言えるようになった」「いつもよりいっぱいみんなに言うことができた」「いろんな人にいっぱい言えた」「英語をいっぱい言えるようになった」という自分自身の学びの気づきを記述した。T-Timeを通して、繰り返し発話すると「どんどん英語が言えるようになっていくから楽しかった」という自分の成長を感じとっている記述もあった。

T-Timeで使用するビンゴシートでは、子どもたちが指導者とやりとりができるよう真ん中の文房具を「stapler」にした(図9)。指導者はやりとりができた児童全員に「Good job.」と声をかけることができた。振り返りの最後に「3学期の目標」を記述する項目を設けた。3学期の目標には、「いつもAでできていると思うからこの調子でがんばる」「今よりもずっとじょうずに言いたい」という記述があり、全員がしっかり自分の目標をもつことができていた。

Lesson 5 Do you have a pen?② Name ()

《めあて》
 ・Do you have～? を使って、持っているかどうかをたずねたり、I have ～. を使って持っている文房具を伝えたりしよう。

◆自分のめあてを決めよう!

A	B	C
Do you have～? を使って、持っているかどうかをたずねたり I have ～. を使って持っている文房具を伝えることができる。	たずねられたことに Yes, I do. / No, I don't. を使って答えることができる。	先生や友だちに助けてもらいながらたずねたり、答えたりすることができる。

《Reflection》 今日の授業について、あてはまるマークに色をぬろう。

	😊	😐	😞	理由
文房具の英語での言い方がわかった				
Do you have～? を使って持っているかどうかをたずねることができた				
I have～. を使って自分の持っている文房具を伝えることができた				
進んで活動に取り組むことができた				

◆自分のめあてが達成できたかふり返ろう。

A	B	C

◆気づいたこと、わかったことなどを書きましょう。

◆3学期の目標

T-Time

A: Hi! Do you have a 「 」?

B: Yes, I do. I have a 「 」. (持っている時)
 No, I don't. (持っていない時)

A: Thank you.

B: You're welcome.

☆ B I N G O ☆

Yes, I do. = O No, I don't. = X










 pencil	 glue stick	 eraser
 notebook	 stapler	 pen
 marker	 pencil case	 ruler

図9 学習シート⑨

5 結果と考察

(1) 結果(児童の変容)

ア 学級全体の変容

5月の質問紙調査「外国語の授業は楽しい」の項目に「とてもそう思う・そう思う」と答えた児童は19人であった。活動するゲームや歌は楽しいと感じていたが、習った英語を使う言語活動になると、活動内容が理解できていないことと自信のなさから、年度当初は、活動への参加が消極的になっていったと思われる。活動内容を分かりやすく示し、各自の目標を立てる学習シートを活用する取組を進める中で、児童の回答が少しずつ変わってきた(表5)。学習シート⑤では、「できなかったらいやだから」と消極的な目標の立て方であったが、学習シート⑥では、「Bの目標を立てたけど、Aを達成した」という声が児童から聞こえてくるようになった。学習シート⑥までは毎時間、目標をBにしていたが、学習シート⑦からAを選ぶようになった児童は、振り返りに「Aを維持したい」と記述した。人とコミュニケーションをとることが苦手な児童は、学習シート⑨では、「最初にやったときよりも話せるようになった」、3学期の目標は「2学期よりも話せるようになりたい」と記述した。小さな成功体験を積み重ねて自信を付けていることを見ることができた。自分の目標を立てることで「活動に参加できる」という気持ちになったのである。参加することで好意性も高まり、12月の質問紙調査「外国語の授業は好きだ」の項目に、「とてもそう思う・そう思う」と答えた児童は22名中21名になった。取組の経過に示した通り、学習シート⑨では「進んで活動に取り組むことができた」の項目に「できなかった」と振り返った児童が0名になったことから、活動への積極性も高まったと言える(表6)。

学習シート④、⑦に設定した相互評価の取組においては、取組の経過で示した通り、事前指導を入念に行った結果、ふざけることなく誠意をもって評価ができた。12月の質問紙調査項目「クラスは発言しやすい雰囲気である」に「とてもそう思う・そう思う」と答えた児童が18名であったことから、発表時に友達が自分のことをどう思っているのかという不安感を感じる児童が減っていることが分かる。発表、相互評価終了後の児童の振り返りからは次のような記述が見られた。「うまいなどのことを言われるとうれしかった」「もうちょっとがんばろうという気になる」「アドバイスやいいところを評価してもらってうれしい」「ちゃんと聞いてくれているんだな」「拍手

表5 児童が自分で決めた目標の変容（A, B, Cの指標を選んだ児童数）

学習シート	各自立てた目標			目標の振り返り								
	A	B	C	A→A	A→B	A→C	B→A	B→B	B→C	C→A	C→B	C→C
③	8	7	6									
④	9	9	3									
⑤	6	15	1	6	0	0	4	10	1	0	0	1
⑥	10	12	0	9	1	0	5	7	0	0	0	0
⑦	14	6	1	13	1	0	4	2	0	0	0	1
⑧	14	7	1	12	2	0	4	2	1	0	0	1
⑨	10	10	2	10	0	0	7	2	1	0	0	2

表6 振り返り項目「進んで活動に取り組むことができた」（自己評価の変容）

	シート①	シート②	シート③	シート④	シート⑤	シート⑥	シート⑦	シート⑧	シート⑨
よくできた	13	19	15		12	13	17	14	18
できた	3	2	6		6	9	4	3	4
できなかった	2	1	1		2	0	0	4	0

学習シート④	伝えるために工夫した	「うめrais」で聞けた
よくできた	9	11
できた	11	8
できなかった	1	2

学習シート④は、P-Time（自己紹介の発表）を設定したため、「伝えるために工夫した」「うめraisで聞けた」という項目にした。

をもらったらうれしい」「うれしかった。なぜかという、自分の言っていることをみんな分かってくれたと思った」以上の記述内容から、自分への評価を見て自信の高まりや次への改善点の把握といった意欲の変容が見られた。

学級全体においては、以上のような言語活動への積極性の変容を見取ることができたが、その中で特に積極性を高めたかった3人の変容について以下に取り上げる。

表7 A児の学習シート記入内容

学習シート	「進んで活動に取り組むことができた」	目標	振り返り	記述
①	できなかった			19や12～20は覚えたいです。
②	できなかった			虹の色で出てない色や出てこなさそうな色が出てくるのがびっくりです。
③	できなかった	C		英語は苦手でしたくないけど、したいときもある。
⑤	できた	C	C	服には（アルファベットが）いっぱいある。
⑥	できた	B	B	A→Zアルファベット全部だいたい覚えた。
⑦	できた	C	C	英語で言うときはなぜか長い。
⑧	できなかった	C	C	英語と日本語は一緒に発音がちがうやつもあるけど、全然ちがうと思いました。
⑨	できた	C	C	楽しかった。 3学期の目標・・・英語を覚える

イ 個別児童の変容

(7) A児の変容

A児は、外国語活動の授業では、机にうつ伏せてしまうなど、活動時に立ち上がらないこともある。外国語に対しては「分からない」と思い込んでおり、振り返り時の自己評価は「できなかった」を選ぶことや目標も指標Cを選ぶことが多い（表7）。

学習シート①の振り返りでは、「進んで活動に取り組むことができなかった」としているが、記述部分では「覚えたいです」と前向きな内容を書いていた。活動に参加したい気持ちはあったが、内容理解や英語で発話することへの不安から、言葉では「分からない」という表現をし、うつ伏せる姿勢になっていた。指導者がそばに行き参加を促し、一緒に活動を行うことで内容が分かると参加をする。しかし、習った言語材料がしっかり言えても、「できなかった」という振り返りをした。学習シート③の目標の指標は、A児のことを考えて作成した。前時、A児は「I like ～.」は発話できていた。次時は「I like ～.」を使った自己紹介のP-Timeを設定している。これらを考慮し、指標CはA児が安心して活動に参加できる内容にした。振り返りでは、「英語は苦手でしたくないけど、したいときもある」と書いていた。学習シート④P-Timeにおける相互評価では、グループの友達を誠意をもって評価し、A児自身が振り返りで「できた」と答えた「I like ～.」の発表は、グループの全員が◎の評価をした。A児は振り返りの記述部分に気付いたことや感想をしっかり書けていた。活動に真面目に向き合い、振り返りを前向きに捉えていると感じた。学習シート⑦の指標には「先生や友達に助けてもらって」という内容を入れた。A児は活動が始まると、指導者に「何て言うの？」と自分から聞くようになった。学習シート⑨では、「進んで活動に取り組むことができた」「楽しかった」と振り返り、3学期の目標は「英語を覚える」と書いた。目標の指標Cの工夫により、A児は安心して活動に参加することができた。学習シート⑧、⑨の時点では、指標Cを選ぶと指導者が来てくれることも分かっていたようである。外国語活動の授業中、机にうつ伏せることはなくなり、活動に参加できるようになった。

(4) B児の変容

B児は、学級では影響力が大きく、B児の発言や行動に学級のほとんどの児童が注目する。目標もB児が自分の選んだ指標を大きな声で言うと、それを聞いて他の児童が同じにするというこ

表8 B児の学習シート記入内容

学習シート	「進んで活動に取り組むことができた」	目標	振り返り	記述
①	できた			今日英語にちょっと興味をもった。
②	できた			ほとんどの国が同じ言い方なのがあった。
③	よくできた	B		答えることができた。
⑤	できなかった	D	D	未記入
⑥	よくできた	B	B	アルファベット全部言えた。
⑦	できた	未記入	B	未記入
⑧	できなかった	B	C	おもしろかった。
⑨	よくできた	A	A	文房具の英語がまあまあわかった。

ともあった。気持ちの不安定なときがあり、B児の言葉によって教室全体の雰囲気が変わることもある。意欲がないときは、活動に参加しない。コミュニケーション活動では相手に分かりやすく話すことや、相手の気持ちに応じて自分の表情を考え、聞く姿勢に気を付けることなど、相手に配慮する必要な点がたくさんある。P-TimeとT-Timeを通して、B児に相手意識をもってほしいというねらいがあった。また、B児は「失敗したくない」という気持ちが強い。指標Aの目標を立て、「できなかったらいやだから」という思いからBを選ぶ。内容を読まずにBを選ぶこともある。学習シート③、⑨のT-Time、学習シート④、⑦のP-Timeは指導者の観察では、しっかり活動に参加し、グループでの相互評価も友達のよいところを捉え、評価していた。学習シート④の振り返りでは、「聞きやすいように工夫した」と記述し、友だちの発表を聞いて、「自分よりみんなうまく言って発音もよかった」と書いた。T-Timeを設定した学習シート⑨では、初めて指標Aの目標を立て、振り返りもAであった(表8)。振り返り項目「進んで活動に取り組むことができた」は「よくできた」と自己評価した。記述部分には「文房具の英語がまあまあわかった」と書き、3学期の目標は「楽しくしたい」と記入した。友だちと関わる言語活動や相互評価をすることを通して、自分自身が積極的に活動に参加することが、「楽しくなる」につながると気付いたと思われる。T-Timeでは率先して積極的に活動できるようになった。

(ウ) C児の変容

C児は、学習内容を理解するのに大変時間がかかる児童である。内容が難しいとやる気を失ってしまうこともある。しかし、活動的な学習には喜んで参加することができる。コミュニケーション力が高いため、分からないことがあると指導者や友達に尋ねることができる。外国語活動の授業では他教科では見られないC児の様子を見ることができた。指導者としては、言語活動への積極性を高め、学習に対する自信をもってほしいと考えていた。最初の学習シート①から前向きな記述内容が見られた(表9)。「何を」「どのように」すればいいのかという具体的で分かりやすい学習内容の提示がC児の意欲を高めたと思われる。自分の目標を自分で立てるという形も活動的なC児には合っていた。学習シート⑤では指標Aの目標を立て、「もしできれば」と書き加えていた。学習シート⑤の授業では、アルファベットカードを一人1～2枚持ち、身の回りで見つけた英語を紹介し、そのアルファベットカードを持つ児童が前に出てくるという活動をした。出番が多くなるように、意図的に「A」のカードをC児に渡していた。「A」を含む英語が身の

表9 C児の学習シート記入内容

学習シート	「進んで活動に取り組むことができた」	目標	振り返り	記述
①	よくできた			1～20までは覚えたけど、30～100までも覚えていきたい。
②	よくできた			レインボーカラーが言えるようになった。色んな国（教科書で知った以外）のレインボーカラーも知りたい。
③	よくできた	B		英語で聞いたりするのはとても答えたり言いにくい。
⑤	よくできた	もしできれば A	A	アルファベットにはAがいっぱい。
⑥	よくできた	B	A	発音が似ているのがあった。
⑦	よくできた	A	A	自分の（名前の）アルファベットを言うのは大変。
⑧	よくできた	A	A	ややこしい（文房具）。
⑨	よくできた	B	A	今日はかんたん。 3学期の目標・・・英語をがんばる

回りにたくさんあったため、C児は活躍できた。振り返りの記述部分には「アルファベットにはAがいっぱい」と書いた。学習シート⑧の授業では、文房具を表す英語を絵カードで練習したが、ワークシートがなかったので、常に目にすることができる安心材料がなく、不安をもちながら学習したことが、「ややこしい」という記述から読み取ることができた。学習シート⑨の授業ではたくさんの言語材料を使うT-Timeもでき、記述部分には「今日はかんたん」と書かれていた。振り返りで指標Aの目標を達成できたと自己評価することを繰り返す中で、C児はどんどん自信を高めることができていた。次々と目標を達成することを楽しんでいるようであった。自分に合った目標を立て、振り返りで達成感を味わえる形がC児の積極性を高めたと思われる。

(2) 考察

本研究では、学習シートを活用する取組を行い、言語活動への積極性が高まった児童の変容を見取ることができた。児童の変容の見取から、変容につながったと思われる学習シートの工夫について以下にまとめることとする。

ア 児童の実態と反応を充分踏まえた上で、変化をもたせた

学習シートは、学習シートに慣れる段階（Ⅰ）、目標を意識する段階（Ⅱ）、目標を振り返り、フィードバックする段階（Ⅲ）に時間をかけて変化させ、「めあてを確認する」→「各自の目標を立てる」→「めあてや自分の立てた目標を意識して活動する」→「振り返りをする」→「自己の成長を実感する」という学習の流れを定着させることができた。それぞれの段階の中に、さらに小さなステップアップを設けた。児童観察と学習シートの記入内容から児童が全員対応できていることを確認し、次のステップへと進めた。

イ 児童が個々に自分の目標を立てることができた

がんばりたいことを自分で決めることは、学習に自信がない児童やコミュニケーション活動に不安のある児童に安心感を与えた。また、学習への意欲が高い児童には、更に高い目標を目指して挑戦する意欲をもたせた。授業の始めに児童が「やってみよう」「それならできるかも」と思えることが重要なことであった。

ウ 目標の指標A、B、Cの内容を児童の実態に合わせ工夫した

指標の内容は、児童が読んだときに学ぶ姿をイメージできるよう、またA、B、Cの違いにも気付くよう設定した。指標はめあてに沿ったものであるが、Cの内容は選ぶであろう児童を思い浮かべながら設定するため、前時の観察や学習シートの記入内容から、必要に応じて復習や「先生や友達といっしょに～」という内容になっている。苦手意識をもつ児童が活動に参加できるよう安心感が加えられている。指標Cのねらいは、できる目標があることを安心材料にして次に挑戦させたいということであった。児童が目標を立て、○印を記入するとき指導者は机間巡視をして全員の目標を見る。Cを選んだ児童を確認できているため、活動の開始とともに様子を見て、すぐに寄り添える心構えができていた。

エ 学習シートをファイリングすることで、児童は自分の成長が目に見えるものになった

ファイリングすることで、いつでも自分の学びを振り返ることができた。前時の内容を振り返ってから、本時の授業を始めることや、T-TimeやP-Timeを設定した前日には、前時の学習内容を見ながら明日の活動への関心を高めることができた。ファイリングした学習シートを見ると、児童が口々に習った言語材料を発音する姿が見られた。学期の終わりには、全ての学習シートを見返しながら、学習した内容のまとめをすることができた。児童は一人一人自己の成長を目に見えるものとして実感できていた。

オ 指導者のコメントにより、学習の姿をフィードバックした

個々に合った目標を児童が自分で立てて、学習の振り返りも個別化されていたため、指導者も学習シートを通して、個々の成長を見取ることができた。授業中の一人一人の様子を振り返りながら書く指導者の褒め言葉や励ましの言葉から、児童は「先生が自分の事を見ている」と感じていた。取組の経過で示したとおり、学習シート⑥と⑦との間に大きな段差が生まれた。指標Aを目標にする児童が増えたことによる人数の差である。観察により、指標Aの内容を達成できていたという指導者からのコメントは、児童に自分の学びの姿をフィードバックさせ、自信をもたせたとと思われる。

カ ワークシートを合わせることで学習内容への興味・関心を高めた

学習シートを授業の始めに配ると、すぐにワークシートを見て、「楽しそう」「早くしたい」という児童の言葉を聞くことができた。授業の始めに活動内容に興味湧き、活動への意欲を高めるタイミングをもたせることがとても大切であった。

学習シートを活用して全員が言語活動に参加できるようになった。以上の工夫により、児童に目標をもって学習した自分の姿を振り返り、自身の成長を実感させられたことが活動への積極性につながったと思われる。

6 今後の課題

今回の研究は、言語活動への参加を基盤にして取り組んだものであった。学習シートの活用を通して、言語活動への積極性を高めたことにより、深い学びに大切な要因であるコミュニケーション活動を作り出せる可能性を見出すことができた。質問紙調査項目「英語を使えるようになりたいと思う」に「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」と答えた児童から、「話せているから」という言葉を聞いた。学習内容を達成できていることに自信をもっていることが伺えるが、伝えたいことを英語を使って表現する方法は一つではなく、知識・技能を駆使し、自分の考えや情報をさらに工夫して伝え合う楽しさを感じてほしいと考えている。今後、意欲的に表現し合えるさらに質の高い、効果的なコミュニケーション活動に取り組んでいくことが課題である。

参考・引用文献

- (1) 文部科学省 (2017) 『小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編』 p. 11
- (2) 文部科学省 (2017) 『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』 p. 157
- (3) 国立教育政策研究所 (2011) 『小学校外国語活動における評価方法等の工夫のための参考資料』
- (4) 加藤裕美子 (2006) 「小学校英語活動の評価の在り方—児童が意欲的に取り組む自己評価の工夫と評価の観点の明確化—」 東京都教職員研修センター p. 4
- (5) 下浦真由美・陀安龍也・小川勇貴・堀家敦 (2015) 「主体的な学びを高める外国語活動の授業づくり—自己評価の工夫—」 奈良県立教育研究所 p. 18
- (6) 吉田研作 (2017) 『小学校英語 教科化への対応と実践プラン』 教育開発研究所
- (7) 樋口忠彦 (2017) 『小学校 英語教育法入門』 研究社

【資料1】 大和郡山市立矢田南小学校 4年1組 児童22名 質問紙調査結果 回答人数
 そう思う◎ どちらかといえばそう思う○ どちらかといえばそう思わない△ そう思わない×

	5月					12月				
	◎	○	△	×		◎	○	△	×	
外国語の授業は好きだ	12	7	3	0		8	13	1		
外国語の授業は楽しい	12	7	2	1		9	10	3		
外国語の授業のめあてを理解している	7	11	3	1		6	12	2		
英語を使えるようになりたいと思う	14	6	1	1		11	6	4		
英語の学習は大切だと思う	12	5	3	2		8	10	4		
先生や友だちの話を最後まで目を見て聞くことができる	3	15	3	1		5	14	2		
先生や友だちの話を静かに聞くことができる	7	11	4	0		8	10	3		
クラスは発言しやすい雰囲気である	5	9	6	2		3	15	2		
外国のことに興味をもっている	9	8	2	3		6	11	3		
ALTの先生の話が理解できる	4	7	4	7		1	12	6		
先生や友だちと英語を使って話すことができる	3	5	10	4						
外国語の学習でふり返りをしている	6	9	4	3						
	7月					12月				
自分で決めた目標をめざし、がんばることができた	14	5	2	1		10	9	2		
T-Timeで習った英語を使うことができた	12	8	1	1		7	10	5		
P-Timeで習った英語を使うことができた	10	8	3	1		10	7	5		
「めあて」を意識してふり返りをしている	10	6	4	2		6	14	1		